

市長と語るタウンミーティング

～支え合いの多文化共生社会の実現に向けて～



- 実施報告書 -

概要

日時・場所

令和6年1月7日(日) 午後2時30分から午後4時
小牧市役所本庁舎5階 公室

主催

小牧市

参加者



マレイレイウさん
国 籍：ミャンマー
日本在住歴：15年



シルバメグミさん
国 籍：ブラジル
日本在住歴：33年



宮崎 プッタチャートさん
国 籍：タイ
日本在住歴：22年



グエン ヴァン ビエンさん
国 籍：ベトナム
日本在住歴：6年

山下市長

(ファシリテーター)

多文化共生推進室 堀田室長



市長あいさつ

皆さんこんにちは。

今日は、外国籍の市民の方をお招きして、「市長と語るタウンミーティング」ということで、集まっていただきました。

小牧は製造業が多いこともあり、日本の中でも外国人が多いまちです。私は、市長になってから13年になりますが、就任時は8,000人ぐらいの方が暮らしていました。市長就任前のリーマンショックで一時減りましたが、それから、徐々に徐々に増えて、今は、1万人を超えています。

だいたい60か国ぐらいから来ていて、ブラジルや南米の方、それから、中国や韓国、フィリピンの方が多いです。また、最近ではベトナム、タイ、ミャンマーなどの東南アジアの方も増えています。

15万人のうちの1万人なので、小牧市内15人に1人は外国人市民です。国籍は異なりますが、市民ということでは一緒なので、地域で一緒に暮らしている仲間だという意識で、日本人も外国人の方も気持ちよく過ごしていただきたいです。文化の違いや習慣の違いなどもありますが、お互いを理解しながら、気持ちよく過ごせるようなまちにしようと、小牧市としても努力をしています。

色々な事やっていて、国際交流協会や、ボランティアの方々も頑張ってくれています。日本語教室や、外国の文化を学ぶ日本人のための講座などもあります。

しかし、プライベートで日本人と外国人の方が一緒に楽しむということは、まだ少ないかなと感じています。その辺りが、実際どうなのかということも気になっています。

また、外国人の方のコミュニティーにもしっかりと、色々な情報を市として届けたいですが、行政として、難しさを感じています。

今月には、外国人集住都市会議が小牧市で開催することになっています。外国人の方が多く住んでいるまちが、地域の課題を持ち寄って話し合い、それを国に提案したり、日本語が話せない子どもたちの教育などの対策について話し合います。

小牧で暮らす外国人は、まだまだ増えていくと思います。共生社会の実現に向けて、やることがたくさんあるので、皆さんに色々な意見をもらい、今後の様々な取組に生かしていきたいと思っていますので、ぜひ、日頃思っていることや感じていることを、話してもらえればと思っています。

意見交換

※事前に回答していただいたアンケートをもとに、意見交換を行いました。

◆「ごみ出し」について

(シルバさん)

皆さんもだと思いますが、日本に来て、最初のごみ出しが1番難しかったです。

昔のブラジルは全部一つの袋で捨てることができました。(今は分別しているみたいです)

日本語もわからないし、当時は教えてくれる人もあまりいなかったです。また、スマートフォンもなかったので、自分で調べることも難しかったです。

近所の方に、怒られることもありました。怒っていることはわかるけれど、何を言っているかは分からなかったので、少し悲しかったです。

今は市役所でも全部、翻訳してあるので、今日本に来る外国人はとても助かっていると思います。

(ビエンさん)

ごみ出しのルールは難しいですが、ベトナム語の説明書をもらったので、少しは助かっています。

(マレイさん)

小牧市の前に日本の別の場所に住んでいた時は、毎日ごみを捨てることのできる場所があって、家でためなくても、捨てることができました。

今は、収集日までごみを家にためないといけないので、場所をとって少し困っています。

提案ですが、県営住宅は何棟もまとまっていますので、例えばA棟には資源ごみ、B棟には缶・ビンなど、それぞれ専用のごみ収集場にして、いつでも資源ごみを出せるようにしたらどうかと思います。

(市長)

ごみ出しの問題は、外国の方に限らず、日本人も一緒です。分別の種類が増えたので、新たな課題だと思います。

しかし、ごみの収集体制を考えると、いつでも出せるというのは難しいです。収集日を設ける方法は、どこのまちでも一緒だと思います。

県営住宅に専用のごみ収集場を設ける提案については、敷地は広いので燃えるごみ以外であれば、例えば瓶・缶やプラスチックなどを置く場所を作ることもできるかもしれません。住んでいる方が県へ要望するのもひとつの方法だと思います。

◆「通訳・翻訳」について

(ビエンさん)

日本に住んでまだ少しなので、日本語を完璧には理解できません。だから、病院に行くと先生の説明があまりわかりません。特に専門の言葉は難しいです。できれば、病院に通訳がほしいです。また、自分の症状を説明することも難しいです。事前にインターネットで調べてメモして病院へ行きます

市役所や学校にベトナム語の通訳がいるので、助かっています。ありがとうございます。

(プッタさん)

携帯の通訳を使いますが、タイと日本の言葉の文法が違うので、少し意味が違ってくることがあり、困っています。日本語の会話はできますが、漢字はとても難しいです。

(市長)

残念ながら、全ての場所に通訳を配置することは難しいです。専門用語は難しいかもしれませんが、最近は機械翻訳もだいぶ正確になってきました。文章にしなくても単語でも伝わるので、そういったものも活用しながら、日本語も頑張って覚えてほしいと思います。どこが痛いとかは、単語でいいので、話してくれたら、病院にも伝わると思います。

ただ、本当に困っているときは、市役所もありますし、救急車などは通訳と3者通話できるシステムもあります。

◆「差別」について

(マレイさん)

私は日本語をずっと勉強していますが、完璧にはなりません。それであえて方言とか早口とか難しい言葉で、わからないようにされたりすることもありました。多くの方はそんなことはありませんが、一部の方からはそういった差別を受けたこともあり、少し悔しい思いもしました。

自分ができることとしては、日本語をもっと勉強するしかないかなと考えています。優しい方は、わかりやすく理解できるようにゆっくり話してくれて、ものすごく感謝しています。

(市長)

日本でも、他の国でも、一部はそういう人がいて残念です。私たちも、様々な機会で啓発をしていくので、そういった差別が少しずつ減っていけばいいと考えています。

◆「日本語の理解」について

(ブッタさん)

最初に日本語を勉強する時は平仮名とカタカナから始めますが、漢字が混じってくると、急に難しくなります。漢字も使い方によって意味が変わるので、理解するのが大変です。

ただ、20年前はインターネットを皆が使っているわけではなかったので、日本語を必死に覚えました。今はインターネットがあり日本語を勉強しなくても暮らしていけるので、日本語を覚えようとする外国人が少なくなったかもしれません。

(シルバさん)

外国人が日本の会社で働こうとする時に、はじめに聞かれるのが日本語力で、日本語能力試験の「N3」以上でないとなかなか面接に至らないです。それなので、日本語能力試験を小牧市で受けることができるのととても助かると思います。(現在は名古屋市まで出向いています)

また、受験料も7,500円と高いので、少し補助が出ると、多くの外国人が試験を受けようと思うかもしれません。

(市長)

携帯で翻訳ができるなど、便利になったことで、日本語を学ばない外国人が増えるという新たな課題になっているかもしれません。

今までは、60か国全て翻訳するのは難しいので、人数が多いポルトガル語とスペイン語、中国語、英語などに絞って翻訳してきました。

しかし、近年の日本の行政は、やさしい日本語として平仮名、カタカナで分かりやすく書くことで、注意や危険のお知らせをするという方向になってきています。

外国人の市民の皆さんと、日本人の市民の皆さんとが仲よく、お互い快適に暮らせるように努力するというのが私の基本的な考え方ですが、日本で生活する上で、最低限の日本語の勉強は必要だと思います。

例えば日本人が海外に行って暮らすという場合でも、日本語しか話せないというのは通じないと思います。どこの国でも、病院や学校に行くのに日本人の通訳をつけてくれと言っても、多分つけてくれないと思います。

だから、日本に来て生活する上で最低限必要な日本語の勉強はしていただきたいです。難しい言葉は分からなくても大丈夫ですが、例えば地震や火事の情報など、命にかかわる言葉については理解してほしいと思います。

日本語能力試験については、確かに受験料は高いので、何回も受けると負担になると思います。

試験を受けるときに小牧市として補助を出すのは、その後どこに就職す

るかも分からないのでなかなか難しいです。しかし、例えば小牧市の企業が採用する際に、試験料も企業が払う場合は補助を出すというような形なら、小牧市の企業への人手不足の対策にもなるので、検討の余地はあるかもしれませんね。

参加者の感想

(マレイさん)

最初は緊張しましたが、とても楽しかったです。今後は日本語を勉強して、日本の方とも交流していきたいと思います。

(シルバさん)

敬語が上手く使えないので不安でしたが、文化の違いなど色々な想いを伝えることができ良かったです。

(プッタさん)

市長はとても優しく話をしてくれました。今後もボランティア活動などに力を入れて、交流を広げていきたいと思います。

(ビエンさん)

市長と話すことができるととても貴重な機会でした。最近では忙しくて日本語の勉強ができていませんが、これから頑張って日本語を勉強します。

おわりに

より良い市政運営のため、多様な市民の方の意見や提案を聴く機会として、例年、テーマを決め、定期的にタウンミーティングを開催しています。

今回は、令和6年1月18日に「外国人集住都市会議こまき2023」が本市で開催される予定であり、日本の人口が減りゆく中で、日本が外国人に選ばれる国となり、国籍を問わず誰もが夢や希望を持って、活躍できる社会を実現するための方向性を見出す重要なテーマで議論することも踏まえ、日本で暮らす外国籍市民の方とのタウンミーティングを企画しました。

色々な話を聞かせていただき、我々もなるほどと思う話も多く、大変参考になりました。

外国籍市民の方も含め、小牧市で暮らす誰もが「住みたい・これからも住み続けたい」と感じていただけるような魅力と活力のある“まちづくり”を目指し、オール小牧で取り組んでいきたいと思ひます。